

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 371 事業名 地域生活支援事業（精神障害者の社会復帰リハビリテーション）

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	○
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		保健所費	
	大事業		保健所事業	
	事項		地域生活支援事業	

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	永年	～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	保健対策課	坂東 貞次	433-2261
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実	○	道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）	事業内容				
生活訓練、ボランティア活動支援や社会参加促進を行うことにより、精神障害者福祉の向上を図る。	1. 専任指導員とともに日中活動を行うことにより、生活リズムを整え、リハビリテーションを行う地域生活支援ルーム事業。 2. 精神保健福祉ボランティアの養成、派遣。ピアカウンセリングを行う事業団体の活動やボランティア団体の組織化の支援等を行うボランティア活動支援事業。 3. 精神障害者スポーツの振興と地域生活の充実を図る社会参加促進事業。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	市内に在住する回復途上にある精神障害者の方を、レクレーション・調理実習・SST・スポーツ活動を通じて社会復帰のリハビリテーションを行った。また、精神保健福祉ボランティアを養成し地域の精神障害者宅や関係団体への派遣を行い、家族間のストレス緩和や社会復帰の促進を行った。	市内に在住する回復途上にある精神障害者の方を、レクレーション・調理実習・SST・スポーツ活動を通じて社会復帰のリハビリテーションを行った。また、精神保健福祉ボランティアを養成し地域の精神障害者宅や関係団体への派遣を行い、家族間のストレス緩和や社会復帰の促進を行った。	市内に在住する回復途上にある精神障害者の方を、レクレーション・調理実習・SST・スポーツ活動を通じて社会復帰のリハビリテーションを行った。また、精神保健福祉ボランティアを養成し地域の精神障害者宅や関係団体への派遣を行い、家族間のストレス緩和や社会復帰の促進を行った。		

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	4,432	4,339	4,433	4,387	4,417	4,432	4,455		4,455		
	伸び率 (%)	-	-	0.0%		-0.4%		0.9%		0.0%		
	人件費	常勤職員	7,011	7,887	7,011	7,756	7,756	11,476	11,476		11,476	
		非常勤職員	2,519	1,822	2,519	3,633	3,633	2,019	2,019		2,019	
		小計	9,520	9,709	9,520	11,389	11,389	13,495	13,495		13,495	
	国庫支出金	2,216	1,757	2,216	1,793	2,202	1,477	2,222		2,222		
	県支出金	1,108	1,114	1,108	1,100	1,101	1,106	1,111		1,111		
	市債										0	
その他	11	7	11	7	11	11	11		11			
一般財源(税等)	1,097	1,461	1,098	1,487	1,103	1,838	1,111		1,111			
所要人数	常勤職員	0.91	1.03	0.91	1.03	1.03	1.52	1.52		1.52		
	非常勤職員	1.23	0.89	1.23	1.44	1.44	0.8	0.8		0.8		

3 目標及び実績

指標名及び達成状況						平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	精神保健福祉ボランティア登録者数					年度目標値	50	50	50	60	70
						実績値	36	38	52		
	単位	人	全体目標値	50	全体目標達成度	106.0%	年度別達成度	72.0%	76.0%	106.0%	
	地域生活支援ルーム登録者数					年度目標値	23	23	23	23	23
					実績値	22	18	18			
					年度別達成度	96.0%	78.0%	83.0%			
成果指標	精神保健福祉ボランティア利用者数					年度目標値	1190	1190	1190	1190	1190
						実績値	735	728	620		
	単位	件	全体目標値	1190	全体目標達成度	121.3%	年度別達成度	62.0%	61.0%	52.1%	
	地域生活支援ルーム参加延べ人数					年度目標値	1600	1600	1600	1600	1600
					実績値	1467	1465	1299			
					年度別達成度	91.7%	91.6%	81.2%			
					全体目標達成度	91.6%					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	地域生活援助を充実する等精神障害者の保健及び福祉に関する施策を総合的に実施することにより、精神障害者が社会復帰をし、自立と社会経済活動への参加をすることができるように努力する義務があるため。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	